

# A群溶連菌 腸球菌、その他レンサ球菌 など 簡易・迅速鑑別用試薬

## PYRディスク



### 商品概要

PYR (L-ピログルタミン酸 $\beta$ -ナフチルアミド、別名ピロリドニル- $\beta$ -ナフチルアミド) は酵素加水分解により、遊離の $\beta$ -ナフチルアミンを放出します。これはPEP試薬を添加した際の色の変化によって検出することができます。

#### 【判定】

赤色を陽性と判定する。(写真1参照)

オレンジ、サーモン、黄色は陰性と判定する。

#### 【注意点】

- ①ディスクが湿りすぎている場合は偽陰性となります。
- ②選択培地または同定用の試験培地から菌を釣菌した場合は、偽陰性が生じることがあります。
- ③トリプトファンを含む培地(例えば、血液寒天培地)で培養した微生物の場合、PEP試薬のインドール反応により呈色反応が影響されます。具体的には、微生物のPYR反応、インドール反応の組み合わせにより、右記の表1のような呈色反応を示すことが予測されます。

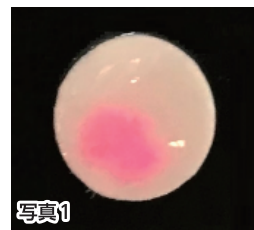
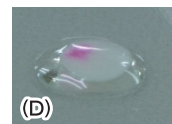
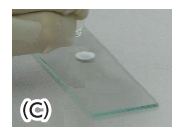
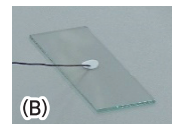
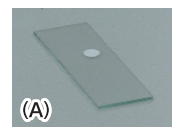


表 1

	PYR+	PYR-
インドール+	紫	緑色または青緑色
インドール-	暗いピンクまたは赤	黄色

### 使い方

- 1 ディスクをスライド・ガラスの上に置き、水で湿らせます。(A) 参照  
注) 水分が過剰にならないように気を付けて下さい。ディスクが湿り気でスライド・ガラスに固定される程度で十分です。
- 2 試験の対象となるコロニーをディスクに塗り付けます。(B) 参照
- 3 2~5分間室温に放置した後、  
付属のPEP試薬(インドール)を1滴滴下します。(C) 参照
- 4 1~2分で呈色反応が起こるのを観察します。(D) 参照
- 5 暗いピンクまたは赤から紫色の呈色反応が陽性です。  
緑色または青緑色、黄色の呈色が見られる場合はPYR陰性です。



## ●生化学性状

菌種	Lancefieldの分類	PYR	備考
<i>Streptococcus pyogenes</i>	A	+	
<i>Streptococcus agalactiae</i>	B	-	
<i>Streptococcus dysagalactiae</i> <i>subsp. dysagalactiae</i>	C	-	
<i>Streptococcus dysagalactiae</i> <i>subsp. equisimilis</i>	A, C, G	-	
<i>Enterococcus spp.</i>	D	+	<i>S. bovis</i> :PYR(-)
<i>Leuconostic spp.</i>		-	
<i>Lactococcus spp.</i>		+	
<i>Staphylococcus aureus</i>		-	
<i>Staphylococcus intermedius</i>		+	
<i>Staphylococcus lugdunensis</i>		+	
<i>Staphylococcus schleiferi</i>		+	
<i>Aerococcus viridans</i>		+	
<i>Aerococcus sanguinicola</i>		+	
<i>Aerococcus urinae</i>		-	

## 保存

しっかりフタを締めて、2～8℃で保存して下さい。

品番	入り数	価格(税抜き)
SDL-K1538B	50枚	13,000円

※PEP試薬(インドール)が付属しています。

監修：東京医科大学微生物学講座 教授 大楠 清文  
株式会社ミロクメディカルラボトリー

<p>〈製造〉 米国・KEY SCIENTIFIC PRODUCTS社</p> <p>〈販売〉</p>  <p><b>株式会社スギヤマゲン</b> since 1932</p> <p>〒113-0033 東京都文京区本郷 2-34-9 TEL. 03-3814-0285 FAX. 03-3815-3045</p>	
--	--